

Ⅲ. 資料

Photo by Nobuyuki Abe



1. 「高校魅力化評価システム 2.0」 診断結果チェックシート

Portfolio of sustainable education and community

高校魅力化評価システム 組織診断ポータルサイト

高校名 山形県立小国高等学校
年度 2021年度

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	0
総員数	65 (小国)	16	24	21	44	0
男女	30 (小国)	14	23	21	44	0
教職員	30 (小国)	14	23	21	44	12

【メモ】 教員は、育てたい生徒数など

Summary 総括表

【今年度の強み (まとめ)】

① 学習意欲	3	4	4	3
② 学習態度	4	1	1	1
③ 主体的学習	3	3	2	2
④ 主体的行動	3	3	2	1

【今年度の弱み (まとめ)】

① 学習意欲	3	4	4	3
② 学習態度	4	1	1	1
③ 主体的学習	3	3	2	2
④ 主体的行動	3	3	2	1

【今年度の強み (まとめ)】

【今年度の弱み (まとめ)】

How to read 結果の読み取り方

このポータルサイトでは、以下の5領域、4領域、3領域、2領域、1領域を評価することができ、5つの項目を4つの領域から3つの領域で評価します。

- ① 学習意欲 (主体的学習、主体的行動)
- ② 学習態度 (主体的学習、主体的行動)
- ③ 主体的学習 (主体的学習、主体的行動)
- ④ 主体的行動 (主体的学習、主体的行動)

【評価】

- ① 5段階 (1: 最も低いレベル、5: 最も高いレベル)
- ② 5段階 (1: 最も低いレベル、5: 最も高いレベル)
- ③ 5段階 (1: 最も低いレベル、5: 最も高いレベル)
- ④ 5段階 (1: 最も低いレベル、5: 最も高いレベル)

【評価】

- ① 5段階 (1: 最も低いレベル、5: 最も高いレベル)
- ② 5段階 (1: 最も低いレベル、5: 最も高いレベル)
- ③ 5段階 (1: 最も低いレベル、5: 最も高いレベル)
- ④ 5段階 (1: 最も低いレベル、5: 最も高いレベル)

【今年度の強み (まとめ)】

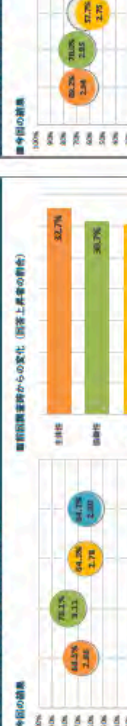
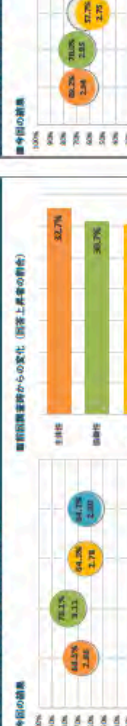
① 学習意欲	3	4	4	3
② 学習態度	4	1	1	1
③ 主体的学習	3	3	2	2
④ 主体的行動	3	3	2	1

【今年度の弱み (まとめ)】

① 学習意欲	3	4	4	3
② 学習態度	4	1	1	1
③ 主体的学習	3	3	2	2
④ 主体的行動	3	3	2	1

【今年度の強み (まとめ)】

【今年度の弱み (まとめ)】



【今年度の強み (まとめ)】

【今年度の弱み (まとめ)】



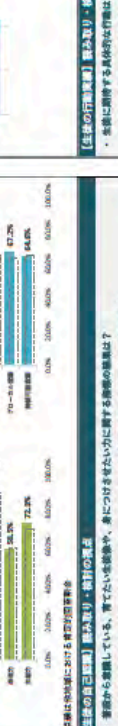
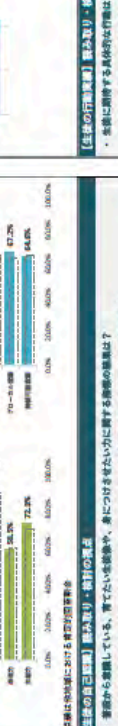
【今年度の強み (まとめ)】

【今年度の弱み (まとめ)】



【今年度の強み (まとめ)】

【今年度の弱み (まとめ)】



【今年度の強み (まとめ)】

【今年度の弱み (まとめ)】



【今年度の強み (まとめ)】

【今年度の弱み (まとめ)】



【今年度の強み (まとめ)】

【今年度の弱み (まとめ)】

Details 詳細結果

① 学習活動 (明宗的なカリキュラム)

項目	全校		1年生 (2021入学生)		2年生 (2020入学生)		3年生 (2019入学生)	
	割合(%)	数(p)	割合(%)	数(p)	割合(%)	数(p)	割合(%)	数(p)
1 10ptLoomis	76.9%	26.87	96.9%	42.53	73.2%	18.87	66.7%	2.38
2 10ptLoomis	87.7%	24.13	100.0%	34.78	82.1%	16.93	85.7%	14.29
3 基本的に買べものや教材を行う	66.2%	29.61	93.6%	50.27	64.3%	20.81	47.6%	9.52
4 学校外のいろいろな人に出会って行く	88.2%	13.38	97.9%	21.11	86.9%	10.09	82.9%	3.17
5 グループで協力しながら学習や買べものを行う	93.8%	10.11	100.0%	8.70	92.9%	1.55	90.5%	0.10
6 演劇、学習内容について生徒同士で話し合う	89.2%	4.38	93.6%	6.79	89.3%	2.33	85.7%	9.52
7 演劇、学習内容について大人 (教員や地域の大人) と話し合う	81.9%	19.42	100.0%	47.83	78.6%	26.40	47.8%	0.00
8 10 部分の考えを文章や図表にまとめる	80.4%	5.76	93.8%	19.84	83.9%	10.02	65.5%	-5.95
9 話し合った内容をまとめる	73.8%	1.12	81.3%	2.99	78.6%	0.31	61.9%	9.52
10 演劇、学習のまとりを発表する	84.6%	7.34	100.0%	26.09	82.1%	8.23	43.5%	-4.76
11 生徒同士で演劇、学習の振り返りを行う	83.1%	11.82	100.0%	43.48	82.1%	25.82	60.9%	-14.29
12 地域の能力や資源について考える	70.3%	1.57	93.8%	6.79	92.9%	5.90	61.9%	-14.29
13 地域の資源の解決方法について考える	80.0%	-0.30	75.0%	-0.36	69.0%	-6.31	68.3%	7.94
14 地域の資源の解決方法について考える	73.8%	1.12	81.3%	11.14	75.0%	-7.61	76.2%	4.76
15 日本や世界の異なる解決方法について考える	56.9%	3.89	50.0%	-6.52	60.7%	4.19	57.1%	9.52



10ptLoomis 0~10ptLoomis 無し

② 学習環境 (学びの土壌: 非形式的なカリキュラム)

項目	生徒の認識 (A)		大人の認識 (A)		生徒の認識 (B)		大人の認識 (B)		生徒と大人の認識の差 (A-B)		生徒と大人の認識の差 (A-B)	
	割合 (%)	平均値と標準偏差 (平均値、標準偏差)	割合 (%)	平均値と標準偏差 (平均値、標準偏差)	割合 (%)	平均値と標準偏差 (平均値、標準偏差)	割合 (%)	平均値と標準偏差 (平均値、標準偏差)	割合 (%)	平均値と標準偏差 (平均値、標準偏差)	割合 (%)	平均値と標準偏差 (平均値、標準偏差)
主体的に関わる学習環境	87.2%		87.2%		88.3%		88.3%		1.1%		1.1%	
20 失敗してもよい安全・安心な環境がある	89.2%	7.89	32.6%	11.23	86.5%	92.9%	80.2%	84.9%	-6.3%	8.33	-1.5pt	-12.8pt
21 挑戦することに対して、励まされる環境がある	95.9%	2.87	27.3%	10.38	93.8%	100.0%	74.4%	86.7%	-6.3%	8.33	2.6pt	-10.8pt
22 人と遊ぶことが得意になる環境がある	86.2%	6.01	25.0%	6.34	100.0%	100.0%	49.5%	94.0%	-6.3%	8.33	6.9pt	-3.1pt
23 目標や目標達成を持って挑戦している人がある	87.7%	8.90	31.8%	7.40	87.5%	92.9%	81.0%	90.0%	-8.3%	8.33	-2.3pt	-12.3pt
34 友達、尊敬している人、憧れている大人がいる	72.3%	13.22	31.8%	15.89	68.8%	82.1%	61.9%	82.1%	-13.2%	8.33	-	-
30 どの分野にも関心を持っている人がある	84.6%	11.88	47.7%	23.62	75.0%	82.3%	85.3%	85.3%	-8.3%	8.33	2.1pt	-15.4pt
26 自分が何かに挑戦しようと思ったら、助けてもらえる環境がある	92.3%	4.43	31.8%	3.55	93.8%	92.9%	90.5%	90.0%	-6.3%	8.33	2.3pt	-7.7pt
創造性に関わる学習環境	86.2%	8.50	33.0%	7.38	92.2%	92.0%	71.8%	88.3%	-6.3%	8.33	6.19	14.58
22 人と遊ぶことが得意になる環境がある	86.2%	11.91	36.4%	6.64	100.0%	100.0%	61.9%	83.3%	-6.3%	8.33	2.8pt	-13.8pt
23 自分が何かに挑戦しようと思ったら、助けてもらえる環境がある	83.1%	1.26	36.4%	1.32	87.5%	89.3%	74.4%	93.3%	-6.3%	8.33	-10.3pt	-16.9pt
27 自分が関心のある分野や役割を持つ人との関わりがある	93.8%	10.51	27.3%	11.78	100.0%	96.8%	85.7%	83.3%	-6.3%	8.33	1.19	16.67
28 立場や役割が異なる人から学ぶ機会がある	81.5%	10.33	31.8%	9.77	87.5%	82.1%	76.2%	93.3%	-6.3%	8.33	11.19	16.67
責任に関わる学習環境	84.6%	3.85	34.7%	3.81	82.8%	91.1%	77.4%	81.7%	-6.3%	8.33	-1.37	15.48
17 本番を緊張感を持って取り組める環境がある	84.6%	4.31	29.5%	1.48	87.5%	96.8%	66.7%	76.7%	-6.3%	8.33	1.67	16.67
18 結果のよい成果、よいことに取り組める人がある	81.5%	-1.79	27.3%	2.34	75.0%	85.7%	81.0%	86.7%	-6.3%	8.33	-9.76	1.19
24 周りの大人は、じつじつと話を聞いてくれる環境がある	87.7%	-1.70	34.1%	1.11	81.3%	92.9%	85.7%	90.0%	-6.3%	8.33	0.71	16.67
31 お互いに助け合っている環境がある	84.6%	13.40	47.7%	10.33	87.5%	89.3%	76.2%	73.3%	-6.3%	8.33	1.90	27.38
社会性に関わる学習環境	87.3%	9.28	35.8%	17.50	93.8%	89.3%	79.8%	83.3%	-6.3%	8.33	-0.95	10.71
19 地域や社会に貢献している環境がある	96.9%	10.56	43.2%	14.22	100.0%	96.8%	95.2%	96.7%	-6.3%	8.33	3.81	16.67
25 興味を持ったことに対して、自分で調べて取り組める環境がある	87.7%	2.84	22.7%	11.40	100.0%	89.3%	76.2%	86.7%	-6.3%	8.33	-6.19	1.0pt
29 地域の大人や関係者から学ぶ機会がある	90.8%	16.53	27.0%	27.02	80.6%	92.9%	81.0%	90.0%	-6.3%	8.33	4.29	0.8pt
32 自分の関心や得意な分野、外からの視点で学ぶ機会がある	73.8%	7.18	38.6%	17.34	75.0%	78.6%	66.7%	80.0%	-6.3%	8.33	-5.71	9.52

*大人の自己評価は、12才大人の自己評価と一致する。

③ 生徒の自己認識 (自尊・能力の主体的認識)

項目	全校			1 年生 (2021.3.現在)			2 年生 (2020.入学生)			3 年生 (2019.入学生)		
	平均	標準偏差	順位 (%)	平均	標準偏差	順位 (%)	平均	標準偏差	順位 (%)	平均	標準偏差	順位 (%)
① 達成目標に達する自己認識	68.5%	2.74	1.22	65.6%	15.06	-0.68	68.8%	2.45	31.0%	10.71	34.5%	
② 自己理解・自己理解	58.3%	0.89	2.20	62.5%	17.05	8.15	64.3%	6.84	32.6%	7.14	21.6%	
③ 自分自身に自信がある	64.0%	-2.05	-7.05	62.5%	-2.72	-7.95	75.0%	9.78	30.4%	0.00	14.3%	
④ 私は、自分自身に満足している	52.3%	3.82	2.64	62.5%	19.02	26.14	53.6%	10.09	34.8%	14.29	28.6%	
⑤ 目標達成力	72.2%	4.13	1.80	62.5%	-13.76	26.14	75.0%	-3.26	26.1%	13.05	47.0%	
⑥ 現状分析	72.3%	4.13	1.80	62.5%	-13.76	26.14	75.0%	-3.26	26.1%	13.05	47.0%	
⑦ 現状分析	68.5%	6.34	6.01	68.8%	14.40	9.66	64.3%	9.94	73.8%	9.52	33.7%	
⑧ 自己理解	64.6%	-0.54	2.65	62.5%	-2.72	-7.95	75.0%	9.78	30.4%	0.00	14.3%	
⑨ 自分自身に自信がある	72.3%	13.22	9.08	75.0%	31.52	6.82	71.4%	27.95	52.2%	4.76	23.8%	
⑩ 現状分析	74.6%	-1.86	-2.43	75.0%	-11.96	15.91	75.0%	-11.96	76.1%	7.14	35.7%	
⑪ 自己理解	76.9%	1.10	0.97	62.5%	-7.07	-1.34	67.9%	-1.71	26.1%	5.52	20.6%	
⑫ 目標達成力	78.1%	6.49	0.77	80.5%	6.56	16.26	79.9%	6.00	31.0%	6.55	30.4%	
⑬ 現状分析	89.1%	4.38	3.22	91.8%	8.79	30.11	89.3%	3.33	30.4%	8.76	33.6%	
⑭ 自己理解	89.2%	4.38	-3.22	91.8%	6.79	30.11	89.3%	2.33	30.4%	8.76	33.3%	
⑮ 目標達成力	92.3%	7.46	3.55	87.5%	-1.80	5.69	96.4%	5.12	21.7%	90.5%	47.6%	
⑯ 自己理解	92.3%	7.46	3.55	87.5%	-1.80	5.69	96.4%	5.12	21.7%	90.5%	47.6%	
⑰ 現状分析	58.5%	7.04	-0.92	62.5%	1.63	12.05	75.0%	14.13	43.5%	5.52	21.6%	
⑱ 自己理解	52.3%	3.82	-0.38	56.3%	12.77	15.34	57.1%	13.06	39.1%	4.76	19.0%	
⑲ 現状分析	72.3%	8.67	3.34	81.3%	16.03	7.64	71.4%	2.64	30.4%	0.00	19.0%	
⑳ 自己理解	72.3%	8.67	3.34	81.3%	16.03	7.64	71.4%	2.64	30.4%	0.00	19.0%	
㉑ 目標達成力	64.3%	1.92	0.32	60.7%	-5.03	8.35	68.8%	2.65	31.0%	5.56	29.4%	
㉒ 自己理解	73.3%	2.63	3.51	70.8%	-11.78	8.71	75.0%	-7.61	21.7%	73.0%	12.70	
㉓ 現状分析	65.2%	5.55	4.59	68.6%	-5.16	9.61	71.4%	-2.49	30.4%	14.29	33.3%	
㉔ 自己理解	67.7%	-0.49	10.73	62.5%	-20.11	7.95	64.3%	-18.12	21.7%	4.76	23.8%	
㉕ 現状分析	86.2%	2.62	6.39	81.3%	-10.05	8.52	89.3%	-2.02	13.0%	19.05	38.1%	
㉖ 自己理解	71.5%	6.39	1.69	71.9%	-2.04	19.80	78.6%	4.66	37.0%	9.52	30.3%	
㉗ 現状分析	76.9%	7.23	0.55	75.0%	1.09	15.91	89.3%	15.17	43.5%	0.00	20.6%	
㉘ 自己理解	66.2%	5.55	2.83	68.8%	-5.16	23.30	67.9%	-6.06	30.4%	19.05	38.1%	
㉙ 現状分析	41.5%	-5.43	-2.11	31.3%	-12.21	3.88	46.4%	3.95	36.1%	4.76	33.6%	
㉚ 自己理解	41.5%	-5.43	-2.11	31.3%	-12.21	3.88	46.4%	3.95	36.1%	4.76	33.6%	
㉛ 現状分析	70.8%	4.10	-1.80	68.8%	3.53	5.11	75.0%	9.78	39.1%	6.76	28.6%	
㉜ 自己理解	70.8%	4.10	-1.80	68.8%	3.53	5.11	75.0%	9.78	39.1%	6.76	28.6%	
㉝ 現状分析	64.7%	-3.38	1.80	65.4%	-7.82	5.71	64.1%	-9.05	18.8%	8.33	27.6%	
㉞ 自己理解	57.9%	-5.69	-0.42	62.5%	-5.02	0.39	52.4%	-15.73	15.9%	11.11	28.6%	
㉟ 現状分析	43.1%	-5.41	0.61	55.3%	8.08	10.80	35.7%	-11.46	17.6%	9.52	33.6%	
㊱ 自己理解	64.0%	-9.63	2.73	68.8%	-9.51	5.11	57.1%	-21.12	17.6%	71.4%	9.52	
㊲ 現状分析	66.2%	-2.03	-4.59	62.5%	-11.41	-10.77	64.3%	-9.63	13.0%	13.0%	33.3%	
㊳ 自己理解	69.1%	-8.53	3.83	65.7%	-8.70	3.03	67.9%	-7.51	24.6%	11.17	27.6%	
㊴ 現状分析	52.3%	-6.78	5.23	43.8%	-12.77	2.84	57.1%	2.62	34.8%	0.00	28.6%	
㊵ 自己理解	75.4%	-9.46	5.11	75.0%	-11.96	2.27	71.4%	-15.53	17.6%	0.00	38.1%	
㊶ 現状分析	80.0%	-3.31	1.15	81.3%	-1.36	3.98	75.0%	-7.03	21.7%	9.52	14.3%	
㊷ 自己理解	73.8%	0.01	4.11	66.7%	-4.35	10.61	70.2%	-7.78	21.7%	63.5%	4.76	
㊸ 現状分析	72.3%	2.63	3.95	87.5%	17.91	27.84	78.6%	-8.29	17.6%	71.4%	19.0%	
㊹ 自己理解	55.4%	0.84	2.56	43.8%	-12.77	-24.43	60.7%	4.19	30.6%	19.05	33.3%	
㊺ 現状分析	64.6%	-1.29	-0.30	65.6%	-13.84	8.81	66.1%	-12.19	13.0%	14.29	30.3%	
㊻ 自己理解	60.0%	-2.12	2.88	68.8%	-13.86	23.30	60.7%	-21.89	13.0%	5.52	20.6%	
㊼ 現状分析	69.2%	-0.47	-3.49	62.5%	-11.41	-5.68	71.4%	-2.46	13.0%	19.05	38.1%	

④ 生徒の行動実績（資質・能力の発現）

項目	全校		1年生 (2021入学生)		2年生 (2020入学生)		3年生 (2019入学生)	
	学年	割合 (%)	学年	割合 (%)	学年	割合 (%)	学年	割合 (%)
60 100以上の達成	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
61 60以上の達成	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
62 50以上の達成	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
63 40以上の達成	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
64 30以上の達成	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
65 20以上の達成	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
66 10以上の達成	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
67 達成者がいる	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
68 達成者がいる割合	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
69 達成者がいる割合	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
70 達成者がいる割合	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
71 達成者がいる割合	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
72 達成者がいる割合	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
73 達成者がいる割合	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
74 達成者がいる割合	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
75 達成者がいる割合	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
76 達成者がいる割合	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
77 達成者がいる割合	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
78 達成者がいる割合	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

⑤ 総合的な生徒の満足度

項目	全校		1年生 (2021入学生)		2年生 (2020入学生)		3年生 (2019入学生)	
	学年	割合 (%)	学年	割合 (%)	学年	割合 (%)	学年	割合 (%)
75 今の生活全般に対する満足度	53.8%	50.0%	50.0%	64.3%	42.9%	42.9%	42.9%	33.3%
63 この学校に入ることがよかったと思う	90.8%	93.8%	93.8%	89.3%	89.3%	90.5%	90.5%	47.6%
76 国際社会の課題解決に貢献したい	56.9%	56.3%	56.3%	42.9%	42.9%	76.2%	76.2%	33.3%
77 未来の社会に新しい技術で貢献したい	41.5%	43.8%	43.8%	42.9%	42.9%	38.1%	38.1%	28.6%
78 最新の技術で課題を解決したい	35.4%	37.5%	37.5%	35.7%	35.7%	33.3%	33.3%	31.3%

補足・追加説明

76 国際社会の課題解決に貢献したい
77 未来の社会に新しい技術で貢献したい
78 最新の技術で課題を解決したい

[三菱UFJ リサーチ&コンサルティング]

■魅力化評価から見えること

- ①明示的カリキュラムは3ヵ年で改良
→本年度卒業生の評価でも肯定的割合が上昇傾向
- ②学びの土壌（非明示的カリキュラム）も良好な水準
→全ての指標で他地域比で高位の状況
- ③生徒の自己認識は総じて入学時から肯定的な割合が増加
→オグパワ7で見ても同様な傾向
→一方、「白い森人」に関する指標は伸びの傾向は確認できず
- ④生徒の行動実績はコロナの影響が大きく評価困難か
→評価時期による影響大

■課題認識

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」を進めながら、主に「白い森未来探究学」の目標の見直しがされてきた（これは良いこと）。

→並行して、高校ではスクールポリシー導入の要請、町での高校魅力化プロジェクトの加速。

→「地域との協働」は総論賛成だが、それぞれの取り組みは有機的につながっているか。バラバラ感・孤軍奮闘感がないか。

→「県・学校・町・地域住民」は目標を共有できているか。（それぞれの活動のつながりを意識できているか）

→学校運営協議会は、この要になる。

[小国高校内で実施したおぐパワアンケートの分析]

（育てたい7つの力の定着度を計る）

■全体を通して

1. 肯定的な回答が多い。ある程度の自己肯定感を持っている。
2. 小規模校サミット、学校行事の教育的効果が高い。他の生徒や地域の方との交流の中で力を伸ばしている。
3. 苦手だと思っていることは、自分の思いを文章・プレゼンを通して伝えること、失敗を恐れずに挑戦すること、自分の強みを見つけること、新しい価値を生み出すことの4つ。自己肯定感の向上と、失敗を受け止める安心安全の土壌づくりが必要。
4. 2・3年生については、苦手なことはあるものの、自身が成長しているという実感も持っている。

■1年生と2・3年生で差が出たもの

1. 「他の人の話を聞いて紙などまとめることができる」；2・3年生において否定的な回答が多い。楽観的に見れば、ワークショップの数を重ねているからこそその苦悩か。
2. 「仲間と協力して物事を進めることができる」「地域の人と協力して物事を進めることができる」；2・3年生における肯定的な回答が多い。特に地域の人との協力については、2・3年生の92%の生徒が自分の能力を肯定的に捉えている。
3. 「道筋を立てて考えることができる」「課題や問題を解決するための方法を考え出すことができる」；2・3年生における肯定的な回答が多い。白い森未来探究学や小規模校サミットの成果か。
4. 「課題を見つけることができる」「新しい価値を生み出すことができる」；2・3年生において「そう思う」と回答している生徒の割合が多い。こちらも白い森未来探究学の実践の成果か。
5. 「絶えず続ける力」；全体として2・3年生の方が肯定的な回答が多い。授業や小規模校サミットなどにおいて、最後まで諦めずに目の前の課題に取り組んだ経験が自信になっている。

新天地膨らむ夢、希望

小国高地域留学生が初登校



高校2年生の1年間を小国高で学ぶ地域留学生4人
 小国町・同校

国の関係人口創出拡大に向けた施策の一つである地域みらい留学365の留学生が7日、小国町の小国高（米野和徳校長）に初登校し、町での新たな高校生活に胸を膨らませた。

地域みらい留学365は、高校2年生の1年間地方の高校に留学する制度。昨年4月、同校は受け入れ校に選ばれ、全国12の受け入れ校で最多の5人が学ぶ。

留学生は▽幸田侑也さん（16）▽矢板中央高、栃木県

出身▽木幡泉希さん（16）▽城北埼玉高、埼玉県出身▽滝慎一朗さん（16）▽飛鳥未来高、岐阜県出身▽垂水珠那さん（16）▽宣真高、大阪府出身▽豊田彩月さん（16）▽高野山高、神奈川県出身の5人。

この日は始業式が行われ留学生4人が出席。在校生約50人の前で自己紹介した後、教室で年間予定などの説明を受けた。留学生は、町の施設や町民宅に下宿し

同校に通いながら、町のイベントに参加し町民らと交流などを行う。木幡さんは「総理大臣になることが夢。町で多くの人の話を聞き、さまざまな暮らし方や意見と触れて夢の実現につなげたい」と語り、垂水さんは「地域の大人と関わる行事が楽しみ。経験した全てを吸収し充実した時間を過ごしたい」と話した。

（小池拓海）



経済産業省の若手官僚とオンラインで意見交換した小国高生
＝小国町・同校

国、町の将来探る

小国高生や経産官僚 オンライン交流

経済産業省の若手官僚と地方の高校生が意見交換する「日本の未来」について語る会が25日、オンライン

で開かれた。小国町の小国高（米野和徳校長）の2年生3人も参加し、国や町の将来について考えた。

官僚4人と岐阜県や三重県などの高校生計約30人が4グループに分かれ、自分や高校について紹介。官僚が同省の取り組みを説明した後、質疑応答に移った。

小国高生は、新型コロナウイルス感染症防止対策を十分に講じている映画館に対して、なぜ営業自粛を要請したのかを質問。官僚の1人は、担当部署ではないため個人的な考えだと前置きした上で、映画館が開いていることで人の外出する動機につながる恐れがあることを示唆した。高橋陸さん（16）は「自分の考えを官僚に伝えられて良かった」と話した。

語る会は、官僚と地方創生に取り組む高校生の交流

の場を設けようとして三重県の紀南高が主催。小国高は小規模校サミットを通じて

紀南高と交流があり、その場で招待を受けた。
(小池拓海)



マイプロジェクトについて、地域住民などと意見を交わす生徒たち
＝小国町・小国高

小国 小国町の小国高（米野和徳校長）は16日、2年生29人がそれぞれが取り組んでいる探究「マイプロジェクト」について、地域住民など約30人から助言を受ける「トークフォーカダンス」を同校で行った。生徒たちは多様な専門性を持つ「地域の大人」に話を聞いてもらい、意見を交わした。

探究型学習

助言受け、考え、形に「マイプロジェクト」

小国高2年生、地域の人たちと対話

2年生は白い森未来探究学（総合的な探究の時間）で、町をPRする動画作りなどをテーマにマイプロジェクトを進めている。今は具体的な内容や手法などを詰めている段階。今回は、生徒らが視野を広げたり、考えを深めたりしてもらうのが狙いだ。

一対一による対話形式で6分程度の話し合いを繰り返し、フォーカダンスのように次々と相手を変えていった。公募に応じた自治体職員や高校・大学の教職員、地域おこし協力隊、自営業者などが生徒の話に耳を傾け、後押ししたり、新たな手法を提案したりするなど熱心に助言していた。

人の心をテーマにした映画撮影を企画する高橋陸さん（16）は「マイプロジェクト

トを人に話すことで自分の中で整理され、新たな気付きもあった。同年代に届く教訓の詰まった映画にした」と目を輝かせる。
同町の移住者コミュニティー・つむぎ代表の舟山康名さん（29）＝同町小国＝は「生徒たちが興味のあることをしっかり調べ、深く掘り下けている姿に頼もしく感じた。最終的にどんな形になるのか楽しみ」と話していた。発表会は来年1月に予定している。
（石井剛）



未来の幸せのため 今できることを

山形新聞
創刊145周年企画

ACT FOR 2030
わたしたちとSDGs

vol.4

小国高校(小国町)
SDGsの授業発・マイプロジェクト

小国高校の2年生が取り組む「マイプロジェクト」。自分の関心に沿ってテーマを設定し、探究活動を実践します。このうち、和田彩日香さんは昨年、家庭科の授業でSDGsを学んだことをきっかけに、コンポストも活用しながら、校内の空き地を再生しようと試みています。同校では家庭科の加藤真央教員が、持続可能な社会をつくる想いを育てようとして、1年時の学習を実践に移す今年度、テーマとして選んだのは、空き地の再生でした。マイプロジェクトスタート前の合宿で、「10年後の未来を想像してみよう」と呼び掛けられ、頭に浮かぶのは「家族や大切な人と一緒に美しい景色を眺めて、ほっとしている時間」。その大切な時間を自分でつくり出すため、校内で空きスペースになっている元花壇に花を咲かせてみようと思った。家庭で出た生ごみをコンポストで堆肥化させて、この計画にも取り組む計画です。「世界を変えたいことは難しいでも興味を持ってから少しずつ、自にできることから始めていきたいと思います」

今年2月、飯豊町のシンポジウムに高校生パネリストとして登壇。さまざまな立場の人の意見から学ぶことが多かったそうです

色を眺めて、ほっとしている時間。その大切な時間を自分でつくり出すため、校内で空きスペースになっている元花壇に花を咲かせてみようと思った。家庭で出た生ごみをコンポストで堆肥化させて、この計画にも取り組む計画です。「世界を変えたいことは難しいでも興味を持ってから少しずつ、自にできることから始めていきたいと思います」

これまで掲載した各校の取り組みは山形新聞ホームページでご覧いただけます



SDGs(=持続可能な開発目標)は、持続可能でより良い社会の実現を目指す、世界共通の目標のこと。2030年まで「行動の10年」とし、市民一人一人まで行動することが求められています。この世界的な課題に、山形の学生はどう向き合っているのでしょうか。SDGsを視野に入れた取り組みや、日頃の活動とSDGsとの関わりについて紹介していきます。

2021年 (令和3年) 8月7日 (土曜日)

山 形 新 聞

街かど
アラカルト



高校生ら防犯啓発
小国警察署(佐藤守署長)と小国町の小国高(米野和徳校長)は7月27日、同町小国小(浅井和校長)で、防犯啓発活動を行った。
署員や生徒など計16人が参加し、小国高公認ゆるキャラ「おぐまん」と町のキャラクター「ワラビマン」「ワラヴィーナちゃん」も駆け付けた。児童に不審者から身を守る台言葉「いかにのおすし」などが書かれたチラシを配りながら、夏休み中に事故や犯罪に遭うことがないように、注意を呼び掛けた。写真。

長女亡くした母 犯罪の影響語る

小国高

小国町の小国高（米野和徳校長）で9月30日、「命の大切さを学ぶ教室」が開

かれ、ストーカー殺人事件で当時大学3年生の長女（21）を亡くした山内久子さん（青森県）が「犯罪被害者の心情」と題してオンラインで講演した。事件があった1995

年、山内さんの長女は横浜市で生活。自宅に侵入し待ち伏せていた同じ大学に通う男子学生に刃物で刺され、亡くなった。事件について説明した山内さんは「事件から26年たつが、ふ

とした時に涙が出ることもある」と語った。また「体の傷は治っても心の傷は一生残る」と話し、「犯罪で（犯人、被害者の）その後の生活が大きく変わる。犯罪は絶対に行ってはいけない」と呼び掛けた。

講演後、生徒は少数に分かれて感想を話し合った。

同校と小国警察署（佐藤守署長）が主催し、全校生徒と教職員の計90人ほどが聴講した。

（小池拓海）



講演後感想を発表し合う生徒

小国町・小国高

小規模校生徒 オンライン交流

小国高が実行委 地域の課題など議論

他県の生徒らと交流する小国高校生
小国町・同校



全国から小規模高校の生徒が参加する「小規模校サミット」が23日、小国町の小国高（米野和徳校長、65人）を拠点にオンラインで開かれた。同校など県内6校を含む13道県、23校の計約190人が、普段は交流の難しい遠隔地の生徒と親睦を深めた。

サミットは小国高が実行委員会（会長・米野校長）

を務め2018年から開催し4回目。各校や地域の課題について議論している。グループに分かれて討議し、長野県の軽井沢高は地元ラジオ局と連携して制作したラジオ番組の放送、北海道の標茶高は地元農家とタッグを組んだ特産品開発など、各校の生徒が取り組みを紹介。小国高は探究学習のテーマ「町にカフェを

開く」の実現を取り上げ、「何かをやりたいと言うと地域の大人がサポートしてくれる」などと説明した。このほか、東北芸術工科大（山形市）の岡崎エミ准教授が「対話のチカラ」と題して講演した。司会役を務めた小国高2年の和田彩日香さん（17）と青木蒼空さん（16）は「オンラインで初

めて会話するという人が多く、緊張している様子だったが、楽しく参加してもらえて良かった」と振り返った。サミットは19年まで小国町内で一堂に会して開催していたが、新型コロナウイルスの影響で昨年からはオンラインで開いている。（小池拓海）

2021年（令和3年）11月12日（金曜日）

山形新聞

置賜地区高校生小論文コンテスト

最優秀に和田さん（小国2年）

米沢有為会（平山英三会長）が主催する置賜地区高校生小論文コンテストの表彰式が7日、米沢市の伝国の杜で行われ、「つながる力を信じて」の題で書いた小国高2年和田彩日香さんが最優秀賞に選ばれ

た。

同会は育英事業などを行っており、進学や就職による若者の県外流出が懸念される中、地方の未来を考えるきっかけにしてみらおうと、2018年からコンテストを開催している。今回のテーマは「人口減少社会の中でも生き活きと持続し



表彰状を受け取る和田彩日香さん
＝米沢市・伝国の杜

ていく地域とするためには」で、高校2年生から97点の応募があり、最優秀賞1点、優秀賞4点、入選5点を決めた。最優秀賞以外の優秀賞、入選は次の通り。
▽優秀賞Ⅱ 垂水珠那（小国）
安部華蓮（南陽）樋口蓮巳（米沢興譲館）高橋凜（米沢東）
▽入選Ⅱ 青木琉羽（南陽）安部朱音（米沢東）木幡泉希（小国）
平吹雪羽（米沢興譲館）星万葉（高島）
（半田徹）

人をつなぐ居場所 + 日常の幸せ撮った写真展

それぞれの探究テーマ実現

探究学習に力を入れてい
る小国町の小国高（米野和
徳校長、65人）2年の高井
エをオープンさせた。開設



高校生カフェをオープンさせ、それぞれの
探究テーマを実現させた高井莉々果さん
（右）と保科想羅さん 小国町・小国高

小国高生2人が一日カフェ

探究学習に力を入れてい
る小国町の小国高（米野和
徳校長、65人）2年の高井
エをオープンさせた。開設

同校では地域の社会人な
どにアドバイスを受けなが
ら、探究学習「白い森未来
探究学」を展開している。
今回は「人と人をつなぐ居
場所を作るカフェ」を探
究テーマにしている高井さ
んと、日常の幸せを撮った
写真展がテーマの保科さ
んが、合同で企画した。高
井さんは町内4カ所の候
補地の視察や提供メニユー
の考案などを行い、保科さ
んはテーマに沿った写真
約100枚を厳選するな
ど、約2カ月前から準備を
重ねた。
高校生カフェは町内のカ

フェ「naebaco」に
3日に開設され、2人は店
員として接客。来店客と交
流した。将来はウエディン
グ関連の仕事に就きたいと
いう高井さんは「人と人が
つながるといふ面ではカフ
エの店員とウエディングプ
ランナーは似ていると思う
ので、良い経験になった」
と語った。保科さんは「お
客さんに『写真がきれい』
と言ってもらえてうれしか
った。アドバイスももらえ
たので、今後の（撮影の）
上達につなげたい」と振り
返った。
（小池拓海）

小松さん（小国高2年） 笑顔いっぱい活動中

止まってくれてありがとう



止まってくれてありがとう。小国町の小国高2年小松幸恵さん（17）は平日朝、同校前の国道113号で手作りのパネルを掲げ、ドライバーに感謝を伝えている。小松さんは「この活動が地域の安全につながれば」との願いを込め、笑顔で道路脇に立つ。

運転手に 平日朝 手作りパネル掲げ

同校では探究学習で「白い森未来探究学」に取り組んでおり、小松さんはテーマを「感謝を伝える世界になろう」に設定した。「車がなかなか一時停止してくれず、横断歩道を渡れないこともあった」という自らの経験を踏まえ、歩行者のために止まってくれる車に感謝の気持ちを伝えようと10月中旬から活動を始めた。

活動場所は、生徒の多くが利用する校門前の信号機がない横断歩道。登校時間帯の朝の約30分間、ドライバーに向けてパネルを掲げている。パ

小国高校前の横断歩道で、一時停止した車に感謝を伝えている小松幸恵さん

川小国町・国道113号

ネルには「交通安全」ありがとう。「お気を付けて」と書き、車からも見えやすいよう、文字を大きく、カラフルに仕上げた。小松さんは「運転手がお辞儀をしてくれるなど反応がうれしい。できる限り活動を続けていきたい」と話し、寒い朝でもめげずに頑張っている。

日本自動車連盟（JAF）の今年8月の調査によると、歩行者が信号機のない横断歩道を渡ろうとした際、手前で一時停止する割合は、本県では42・5％。昨年（24・8％）と比べると大幅に増加しているが、日本一の長野県（85・2％）と比較すると半数以下にとどまるのが現状。このような状況を受け、県警でも昨年からは横断歩道で止まった車に感謝を伝える啓発活動「交通安全ありがとう運動」を推進している。

（小池拓海）

町PRなど成果を発表 小国「地域みらい塾」閉講式

「小国☆地域みらい塾」の閉講式が11月25日夜、小国町役場で開かれた。受講生が6月からの活動の成果などを発表した。

本年度は10、30代の男女計18人が参加した。この日は、各班の担当者が実践したプロジェクトを発表した。町をPRするため、写真共有アプリ「インスタグラム」のアカウントを開設し情報発



活動の成果を発表する受講者
＝小国町役場

信したことや、若者サークルを立ち上げごみ拾いのボランティアなどに取り組んだことを紹介。活動を通じて得た気付きなどを報告した。

NPO法人きらりよしじまネットワークの高橋由和事務局長が、事業の評価・振り返りの方法について講演。その後、仁科洋一町長が受講者代表に修了証を手渡した。

今年4月に町に移住した氏家森さん(24)＝同町緑町4丁目＝は「このようにすればチームが上手に回るかや町の魅力を知ることができた。知り合いもでき、参加して良かった」と全5回の講座を振り返った。

(小池拓海)

学習も県外交流も

ICTで深化 小国高スタイル

新型コロナウイルスの感染拡大を契機に、情報通信技術(ICT)を活用したオンライン学習が全国的に普及している。小国町の小国高(米野和徳校長、65人)は、オンラインを活用した講演会やイベントを数多く開き、学びや他校の生徒との交流を深めている。

同校では、感染拡大を受け、端末を用意、インターネットを確保し、生徒全員が持つことができた。休校を余儀なくされた昨年春、全校生徒を対象にスマートフォンやタブレットなど電子端末の所有状況を調査。生徒全員が持つことができたことから、ビデオ会議アプリ「Zoom」を使った朝礼や授業を試験的に始めた。昨年9月から本格的に導入し、講演会、学級と講師をオンラインでつなぐ授業などを重ねている。翌10月には町や同校後援会の支援を受け、全校生徒分の型コナにより宿泊を伴うサミットの実施は難しいかのように思われたが、オンラインでの開催にき着いた。今年10月23日に開かれたサミットでは、各校の生徒がグループに分かれ、タブレットの画面に向かって名前や地元のお薦めスポットなどを書き込んだ紙を掲げて自己紹介。その後、トークターミーティングにグループをつくり、意見を交わした。2年小松幸恵さん(17)は「県外に住むさまざまな生徒の考えを知ることができた。コロナ禍でそういった機会は多くないので、良い経験になった」と話。オンラインの活用は、他にも効果がある。県内のみならず海外に居住する人に

「サミット」や講演会数多く 「小規模校にこそ効果」

も講師を依頼することができ、講師の交通費や宿泊費が不要になり、金銭的な負担が軽減される。また、コロナ禍前よりも他校の生徒などと交わる回数が増え、交流の敷居が低くなることで、知見や視野が広がっていくはずだ。(小池拓海)



オンライン形式の小規模校サミットで、他校の生徒と交流を深める小国高の生徒たち
＝10月23日、小国町・同校

古里のこと吸収しながら成長

置賜の高校生12人 地域づくり活動発表

長井 ボランティア活動の高校生を対象とした「おきほら地域クリエーター」の地域づくり活動実践発表会が19日、長井市の旧長井小第一校舎で開かれた。生徒たちはさまざまな事例を耳聞きし、地域づくりについて学んだことを説明した。

地域活動に取り組むリーダーとなるような人材の育成や、若者に置賜の魅力を広めるため、県教育委員会が主催。米沢東、南陽、小国の3高校から計12人が参加した。12人は小国町でさまざまな文化など多様な地域づくり活動について学んだ後、「カフェ」と「アグリカルチャー」の2テーマに分かれて活動。生徒は長井市の春まちカフェや高畠町のファームおそらのついで店舗や会社の立ち上げに関する経緯や仕事内容についてパワーポイントを使って紹介した。生徒は「いろいろなことに挑戦することで交流の輪が広がり、できることが増えていくと気が付かされた」「農業に対するイメージが変わった」。

カフェと農業2テーマ

第一次産業を若い世代につなげていくためにも、働き掛けていきたい」などと感想を発表した。小国高2年の木幡泉希さん16は「地域貢献の形は一つではないことが分かった。今後、自分に合った方法で地域に貢献していきたい」と話していた。生徒が発表した内容などは写真共有サイト「インスタグラム」のアカウント「okiboara」で公開されている。(小池拓海)



活動の成果などを発表する高校生
＝長井市・旧長井小第一校舎

本屋なき町に「書店」を

町内に専業の書店がない山形県小国町で、地元の高校生らが、書店や図書館の機能を兼ね備えた空間「ブックマンション」の実現に向け取り組んでいる。町内の一般社団法人と連携し、資金を募るクラウドファンディング（CF）に乗り出した。



ブックマンションの実現を目指す今野さん(左)やヨカモスの井上昌樹共同代表(中央)ら＝昨年12月15日、小国町役場

ブックマンションは、一般の人々が新品、所有する書籍を問わず、自らの選書を本棚の各区分に並べ、販売できる空間。「一箱本屋オーナー制」とも

山形・小国

言い、利用者は本を買ったり、併設するカフェで飲食しながら試し読みしたりできる。本を通じ、町内外の人の交流の場を提供する狙いがある。

想定では、縦、横、奥行き各30センチの本棚1区分に対し、書籍の提供者を有料で募集する。人生で影響を受けた本や好きなテーマの本を棚に自由に置き、発信してもらおう。来場者が支払う書籍の購入代金の一部や会員料金を組み合わせ、空間の維持管理費を賄う仕

本棚オーナー制で交流創出

「ブックマンション」高校生発案

組みを整える。

発案者は小国高3年の今野優希さん(18)。町で本を買えるのはスーパーやコンビニ内の売り場のみで、通販サイトでの購入が多い現状を踏まえた。2020年にあつた町主催のビジネスコンテストで、ブックカフェを設ける案を発表した。

休暇と仕事を両立させる「ワーケーション」用の新施設として地元酒蔵を改装している町内の一般社団法人「YOKAMOS(ヨカモス)」が協力。3月に開業する新施設の一角に、ブッ

CFを活用

クマンション形式で設けることが決まった。

ヨカモスが主体となり、書棚購入費を含め一連の事業費を募るCFを昨年12月15日、専用サイト「キャンプファイヤー」で始めた。目標額は100万円。

今野さんは「本は小さな町から外につながる『窓』のようなもの。町を盛り上げようと頑張る姿を見せ、一つの『窓』になるような場所になりたい」と言う。



JR小国駅を清掃
小国 小国町の小国高（米野和徳校長）3年生3人が12月21日、JR小国駅で清掃ボランティアを行った。写真。

3人は大石蓮さん（18）、後藤李玖斗（18）さん、田中陸翔（17）さんで、全員が飯豊町内から米坂線を使い通学している。3年間利用してきた駅に感謝の気持ちを込め、待合室をほうきで掃いたり、ベンチを布巾で拭いたりした。



交流担う新形態書店

YOKKOSHIの開業人米野和徳、佐藤理恵、佐藤浩一は、町内商店街活性化を目的に、町内商店街に「ヨコシ」を開業する。ヨコシは、町内商店街を活性化させることを目的に、町内商店街に「ヨコシ」を開業する。ヨコシは、町内商店街を活性化させることを目的に、町内商店街に「ヨコシ」を開業する。

小国高校生も参加 3月開店めざす

小国町の一般社団法人YOKKOSHI（ヨコシ）は、町内商店街を活性化させることを目的に、町内商店街に「ヨコシ」を開業する。ヨコシは、町内商店街を活性化させることを目的に、町内商店街に「ヨコシ」を開業する。

ワークショップ拠点内に整備

「ヨコシ」は、町内商店街を活性化させることを目的に、町内商店街に「ヨコシ」を開業する。ヨコシは、町内商店街を活性化させることを目的に、町内商店街に「ヨコシ」を開業する。

ワークショップ拠点内に整備された「ヨコシ」は、町内商店街を活性化させることを目的に、町内商店街に「ヨコシ」を開業する。ヨコシは、町内商店街を活性化させることを目的に、町内商店街に「ヨコシ」を開業する。



「副業」「新入生を増やす」…テーマは多彩

小国高（米野和徳校長）の2年生28人を対象とした探究活動の発表会が、このほど小国町の同校で開かれ、それぞれ1年間取り組んだ「マブロンエクト」で得た経験や学び、今後の展望などを発表した。

生徒は5分科会に分かれ、1日1回発表したが、岡崎工和北芸術科大准教授や和洋一町長など内外の協者が1人が講師した。また、ビデオ会議アプリZoomで配信し、小国高校サミットで交流のある高校などにも視聴を呼び寄せた。

小国高生 探究活動の発表会

「自分の強みを活かした」というテーマで、探究活動の発表会が行われた。生徒たちは各自の探究活動の成果を発表し、互いに学びを共有した。

成果も課題も 私をつくる

副業と題した商品とさんぽは、趣味のロゴやアイコンのデザイン制作でお金を稼ぐことができないか、特技を生かして大勢の人に喜んでもらうことができないか、をテーマにした成果を発表した。SNSの会員制交流サイト（SNS）で仲間を募集したが、予想より少なく、キャンセルが相次ぐなど課題が見られた。高校生の個人営業から、ブランドを新設して個人事業の形態とし、ロゴのニーズを研究するなどの改善を図った結果、軌道に乗ったという。

「まず実践してみよう」と。課題を見つけて解決を考えることが大切だと、同業者から指摘が安さなどの助言もあり、引き付けられるよう頑張ると述べた。今後はボクサーや動画制作業務を立ち上げ、デザインチームをつくる事も探している。

探究テーマは多岐にわたる。小国高の新生入生を増やすための学校紹介動画づくりや、世界各国の伝統菓子の研究・調理、同校の昇降口を明るくする工夫など多彩な内容。県外からの2年生の1年間、同校に留学した生徒たちは、出身の大府府の高校生とのオンライン交流会や、留学生活の体験などを発表していた。（井嶋）

小国 飯豊山麓YOKAMOSワイ
ケーションモニタープログラ
ムが5日、小国町の小玉
川地区で行われ、参加者は
雪深い同地区ならではの雪
遊びや、地元の特産品を満喫
していた。

小玉川地区 ワーケーション体験

YOKAMOSワイケーションモニタープログラムの体験と同時にガイドの育成を図ろうと、町内の一般社団法人YOKAMOS（井上直樹、石井宏和共同代表）が、国の補助金を受



⑤ふかふかの新雪に勢いよく飛び込む参加者

⑥町民らに教わりながらかんじきを着ける参加者

＝小国町小玉川

ワイド地域

本社編集局 023(3)911111
 天童支社 023(4)551111
 上山支社 023(4)551111
 米沢支社 023(4)551111
 長井支社 023(4)551111
 南陽支社 023(4)551111
 地域の情報をお寄せください



この日は町内外からの参加者も多かった。

昨年10月に名古屋市から

移住した山口旺充さん(21)は「これまで名古屋に住んでいて雪遊びをする機会がなかったのが、雪上で動き回ることがこんなに大変だとは思わなかったが、楽しかった」と笑顔で話した。

石井代表は「参加者の声を聞きながら、より良いプログラムになるように内容を磨き上げたい」と語った。

参加者は体温をとりながら新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じて開催した。

(小池拓海)

2022年（令和4年）2月7日（月曜日）

地域

山

形

新

報

息を弾ませ 安全に

小国高、社協や警察署と協力

小国町の小国高（米野和徳校長）の生徒有志らが3日、



除雪作業に汗を流す小国高生たち
＝小国町岩井沢

町内の高齢者宅でボランティアの除雪作業に汗を流した。

町社会福祉協議会の呼び掛けに応じた生徒18人をはじめ、同社協や町教育委員会、小国警察署から約30人が参加。支援の希望が寄せ

られた町中心部の3軒で活動した。除雪作業中の事故をなくそうと、同署と協力して除雪道具に夜光反射シールの貼り付けも行った。

岩井沢地区の1人暮らしの女性宅では生徒9人などが作業に当たった。普段は近隣の住民が除雪してくれるというが、屋根から落ちた雪など家屋周囲の積雪は3倍ほど。生徒たちは息を弾ませながらスコップで雪を崩し、スノーダンプで運ぶ作業を繰り返していた。

2年の加藤大夢さん(17)は「自宅より雪がたくさんあって大変。雪は重いけど頑張りたい」と話していた。

(石井剛)

2022年（令和4年）2月17日（木曜日）

地域

山

形

新

聞

小
国

小松さん（小国高）を善行賞表彰

地区少年
補導員連絡会 運転手への感謝活動 評価

小国地区少年
補導員連絡会
は8日、小国高2年の小松



多勢信人会長（右）から善行賞の表彰状を
受け取る小松幸恵さん 〓小国町・小国高

幸恵さん（17）に善行賞の表彰状を贈った。
小松さんは同校の探究学習の「白い森未来探究学」で、「感謝を伝える世界になろう」をテーマに設定。昨年10月から始業前、学校前の国道113号沿いに立ち、ドライバーに向けて「交通安全ありがとう」などと記した手作りのパネルを掲げる活動を始めた。
同連絡会は広く交通安全への注意喚起などに寄与した活動を評価し、表彰を決めた。この日、多勢会長が同校を訪れて表彰状を手渡した。小松さんは「立派な賞を頂き、もっと頑張ろう

と思った。先生方の指導を受けて取り組んでみてよかった」と笑顔で話していた。

（石井剛）



小国町職員と小国高生が意見を出し合いSDGsへの理解を深めたワークショップ
＝同町・おぐに開発総合センター

町の未来のため 今できることは

SDGsワークショップ

町職員と小国高生

小国 小国町職員と小国高1年生に
よる「小国町の未来を考え
るSDGs（持続可能な開
発目標）ワークショップ」
が15日、おぐに開発総合セ
ンターで開かれ、持続可能
な小国町をつくるための取
り組みについてアイデアを
出し合った。

SDGsの視点を業務に生かそうと、町職員が理解を深める研修活動の一環。文部科学省プロジェクト「#せかい部×SDGs探究」先生レポーターの加藤真央小国高教諭を講師に迎え、先進的な授業を受ける生徒と共同で取り組んだ。加藤教諭は講話で環境やエネルギー、食糧などを巡る世界の現状と課題を解説。「社会問題と自分のつながりを知り、当事者意識を持って目を向けることが大切。それぞれが日々選択し行動を起こすことで、社会を変えることができるのではない」と訴えた。各課から選ばれた若手職員16人と生徒16人は8グループに分かれ、それぞれ町内のさまざまな課題やSDGs学習の成果などを紹介。次世代にどんな社会を残したいか、そのために何ができるかを一緒に考え、グループごとにまとめた。参加した齋藤心花さん（16）は「町の課題と世界の課題を比べながら、意見を出し合えたことは収穫だった。私の知らない町内の動

きや情報をたくさん教えてもらった」と話した。同町は住民の意見を踏まえ、SDGsの理念を生かした事業に取り組む考え。参加した佐藤友春総合政策課長は「高校生がSDGsを自分事として考え、よく学習しており、われわれも刺激を受けた。今回のような機会を増やし、広く町民を交えた情報共有や議論ができる環境を整えたい」と述べた。（石井剛）

仕事や生活 熱心に質問

小国高生、若手社会人と懇談



地元企業の社員に質問する生徒
＝小国町・小国高

小国 小国高生と小国町の若手社会人との懇談会「ハタラトワーク1」が22日、同校で開かれ、町内企業や社会人生活への理解を深めた。1年生12人と、建設会社や町立病院、町役場などから12人が参加した。6グループに分かれ、生徒は「どのような仕事か」「休日は何をしているか」などと業務内容をプライベートまでを質問。社会人の回答をメモしながら、自らの将来について思いをはせていた。ファッションブランドを立ち上げるのが夢だという佐藤愛結さん（16）は「自分の目指す職業について知識を蓄えることの重要性が分かった。服のデザイナーやアパレル関係の人に話を聞いてみたい」と話した。町内企業や働くについて、町が主催し3回目。（小池拓海）

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）

白い森人創生プロジェクト【山形県小国町×山形県立小国高等学校】

研究開発の目的・目標

小国町指定の保小中高一貫教育を一層活用し、高校における白い森学習（地域学習とキャリア教育を複合させた活動）を地域人材としての個性の確立を図る段階と位置づけるとともに、コンソーシアムである高校の学校運営協議会を活用し、地域の様々な主体と協働することで、より効果的・実践的な取組に発展させる。この過程において、広い視野と高い志をもって、地域に貢献し国際社会に生きる活力ある人材の創生（高校の教育目標）を目指すことで、地域活性化の一翼を担う。

現状・背景

- ◇ 全国高等学校小規模校サミット（2018年より開催）での地域と協働した活動が生徒の成長に有意義であることを確信 → 地域を学びの場とすることへの期待の高まり
- ◇ 町が掲げている保小中高一貫教育の学習体系を確立し、保小中で醸成された郷土愛を土台に高校での実践的な活動を展開し、生徒の社会的・職業的自立につなげたい
- ◇ コミュニティ・スクール（2017年より東北地方の高校で初設置）を活用し、地域の多様な主体との連携を促進したい

研究開発の仮説

1. コミュニティ・スクールの特性を活かした地域の様々な主体との協働
2. 保小中高一貫教育を活かした小中学校との連携による「白い森学習（本町の地域学習）」の段階的教育の確立
3. 地域外での表現・交流の機会を増やすことによる多様性の確保



研究実践

1. 地域と連携した課題設定・解決や産業界の協力を得たキャリア教育

【具体的な取り組み】

- 地元企業・地域団体（愛好家）とのつながり
1年ハタラトーク！（若手社員との対話）、2年インターンシップ、3年地元企業人面接
地元企業・地域の団体協力の授業

〈例〉 総探：白い森未来探究学の地域講座の講師 外国語：地元カボチャ使用のハロウィンWS
体育：地元愛好家とのスキー・パークゴルフ 家庭：町内住宅見学、再エネルギー講座
保健：地元企業の労働と健康講座、地元警察署の交通安全講座、地元消防署の救急講座

課外活動 〈例〉エコバック製作、農業体験、バスケットボールクラブ活動

- 高校生・地域の若者の学びの場の創出
白い森ビジネス創出塾（町主催）→ ビジネスプランコンテストへ
地域みらい塾（町主催、若者のアイデア創出・実践）→ 実践のための資金サポート有
○ 高校生の力が発揮できるボランティア・地域貢献活動（地域協働ルールの提示）
〈例〉 高齢者住宅の除雪ボランティア、小学校での防犯啓発、シトラスリボンプロジェクト
特殊詐欺被害防止広告用オリジナル通帳ケース企画・作成
- 高校生との対話・交流の場の創出
〈例〉 高校生と町議との意見交換会、トークフオークダンス（地域の大人との対話）
- 学校教育活動の充実による課外活動（部活動）の地域移行（2020年より部活動任意加入）



研究実践

2. 「白い森未来探究学（総合的な探究の時間）」への発展・拡充と 科目・教科等横断的な取り組みの推進

【具体的な取り組み】

○ 「白い森未来探究学」を3年間の学びに構築

- 1年 地域文化学（地域に浸る）：地域の格好良い大人と出会う、興味関心を高める
- 2年 地域実践学（実践する）：個々に課題を設定し、マイプロジェクトを実施
- 3年 地域構想学（提案する）：これまでの実践から新たな提案へ、将来につなげる

○ 小国高校生による保小中学生のメンターとしてのサポート活動

〈例〉 中学3年体験入学で対話・交流／中学3年「ブレゼン研修」講師
中学2年「白い森学習発表会」アドバイザー
町内小中学生サイエンス講座サポーター

○ グランドデザインの明確化

メインテーマ「挑め、ともに！」・育成したい資質能力「おぐパワ7」の設定（2019-2020）
学校×地域×高校生が一堂に会してワークショップ（2021）

○ 単元配列表の作成（総探を軸とし、本校としての育てたい資質・能力でつなぐ）

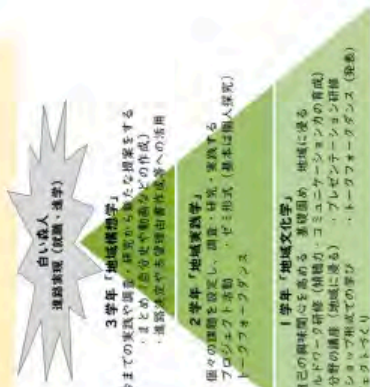
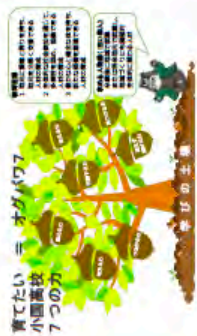
職員室内に見える化 → 各教科の専門性×地域資源（「自分は何ができるか」を考える）

○ 大人の「白い森人研修」の計画・実施（教育現場のバージョンアップ）

年間計画にも位置づけ（2020年5回実施、2021年7回実施）

〈例〉 チームビルディング（年度初めの顔合わせとして実施）

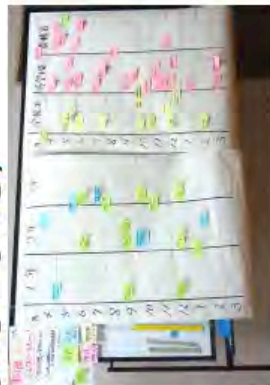
新学習指導要領（教育の転換の本質）の理解



3学年「地域構想学」
今までの実践や調査、研究から新たな提案をする
・主体的な探究活動の推進
・進捗状況や学習成果の共有

2学年「地域実践学」
個々の課題を設定し、調査・研究・実践する
・プロジェクト活動
・ゼミ形式（基本は個人探究）
・ワークショップ

1学年「地域文化学」
自己の興味関心を高める、基礎固め、地域に係る
・フィールドワーク研修（傾聴力、コミュニケーション力の育成）
・様々な分野の講座（地域に係る）
・プレゼンテーション研修
・ワークショップ形式での学び
・トークショー形式での発表
・ワークショップ（発表）



研究実践

3. 外部人材の活用（大学・企業・他校連携、ICT遠隔教育、アントレプレナーシップ教育）

【具体的な取り組み】

① 大学連携（東北芸術工科大学、山形大学 等）

〈例〉 生徒対象の研修（コミュニケーション・ファシリテーション・リフレクション・リーダーシップ等）
工学部での研究活動／大学生との交流授業（特産物の商品開発）／各種出前講座

② 地域外で活躍する人・企業との交流（授業や課外講座の実施）

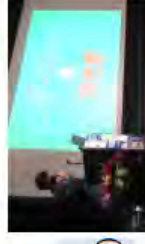
〈例〉 SDGsゲーム演習／隣町フィールドワーク／人権教育／ボードゲーム演習／気候変動講演
馬頭琴演奏会&キャリアートーク／住まいと暮らし／各種国際理解講座

③ 他校生との交流と表現の場（全国高等学校小規模校サミットを中心に）

全国高等学校小規模校サミット開催（2018年より主催、2020年・2021年はオンライン）

→ 主体的・対話的で深い学びの場＋協働的・協働的・探究的な活動創出

〈例〉 2年オンライン総探授業連携／1年オンライン国際交流／マイプロ交流/
マイプロアワード山形サミット出場／地区高校生地域活動（地区教育事務所主催）
県探究型課題学習研究発表会出場（優良賞）／地区小論文コンクール参加（2年連続最優秀賞）



④ ICT機器活用による遠隔教育（学びを止めない緊急時対応企画策定、小規模校の利点活用）

1人1台ICT機器の導入（コンソーシアム等の支援）、スタディサプリ導入（町支援）

⑤ アントレプレナーシップ教育（5回連続講座）→ ビジコン出場やマイプロ活動等につなげる

⑥ さらになる関係（還流）人口の創出拡大を求めて

高校魅力化コーデイネーターの採用（町支援、2020年～）

「高校生の地域留学の推進のための高校魅力化支援事業」の申請・採択（町主導、2019年～）

県外募集申請・認定（2022年度入試～）



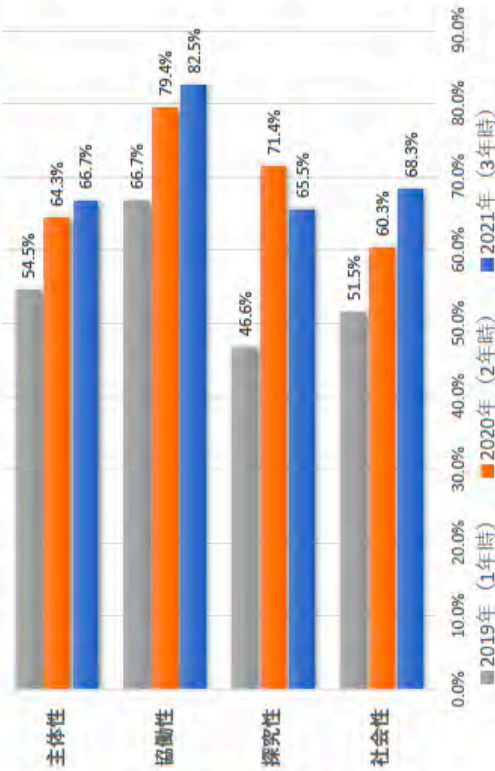
研究開発の成果

1. 「白い森未来探究学」を軸とした成長実感のあるカリキュラムの開発

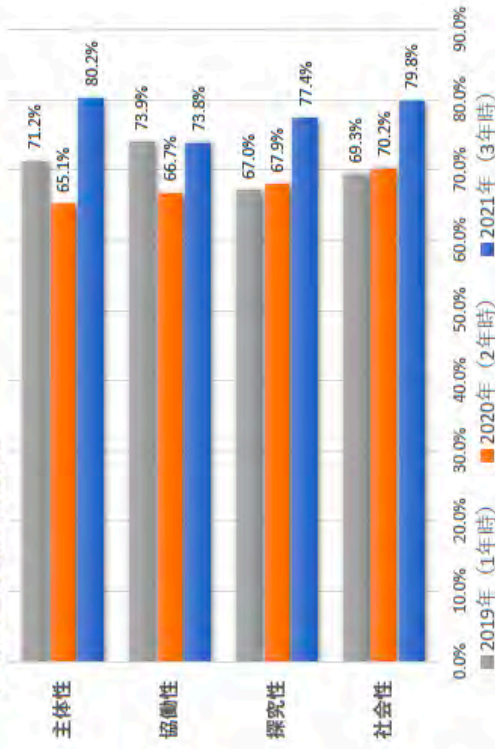
- ▶ 「白い森未来探究学」が、教科・科目等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸として定着
- ▶ 各教科の専門性×地域資源（各々が「自分には何ができるか」を考える当事者意識の醸成）
 - ➡ 社会に開かれたカリキュラムが実現、肥沃な学びの土壌のある地域へ

地域協働カリキュラム一週目の変化（2019～2021年度の3カ年調査結果）より（その1）

①学習活動（明示的カリキュラム※1）の評価指標の「肯定的回答の割合」の推移
 ※1:シラバスや学習計画等の教育課程（何を学べるか、どのように学べるか） ※2:学びの土壌及び教職員等大人の見方・考え方・姿勢等（誰と学べるか、どのような環境で学べるか）



全領域で入学時より高位 → 年々でカリキュラムが改良されている



全指標で他地域比で高位 → 生徒が学びやすい環境が整っている



※1:シラバスや学習計画等の教育課程（何を学べるか、どのように学べるか） ※2:学びの土壌及び教職員等大人の見方・考え方・姿勢等（誰と学べるか、どのような環境で学べるか）

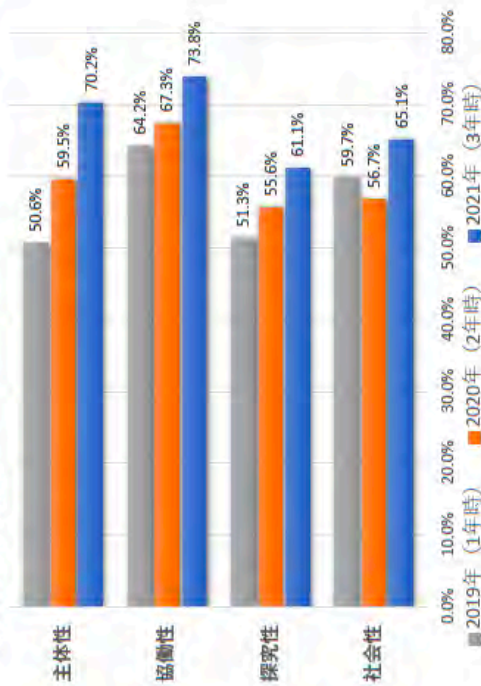
出典：高校魅力化評価システム 組織診断ポータルフォリオ（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）

研究開発の成果

1. 「白い森未来探究学」を軸とした成長実感のあるカリキュラムの開発

地域協働カリキュラム一学期の変化（2019～2021年度の3カ年調査結果）より（その2）

③生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識）の評価指標の「肯定的回答の割合」の推移



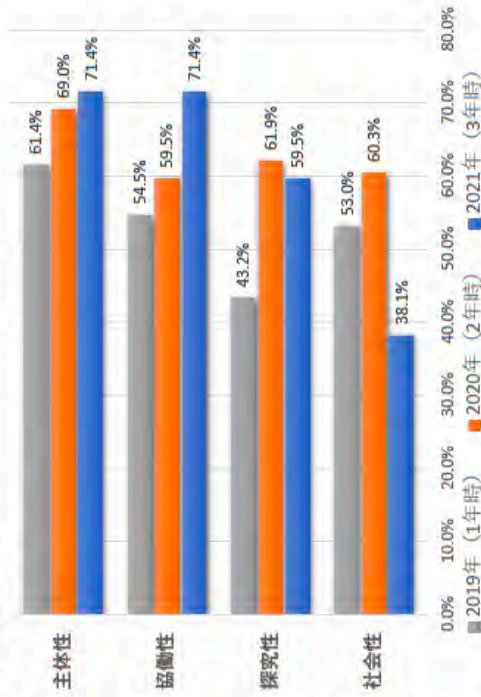
全領域で入学時より高位 → 自ら協働・探究できる力が育成

⑤総合的な生徒の満足度の評価指標の「肯定的回答の割合」の推移



出典：高校魅力化評価システム 組織診断レポートフォリオ（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）

④生徒の行動実績（資質・能力の発揮）の評価指標の「肯定的回答の割合」の推移



入学時より「主体性」「協働性」伸長 △3年時「社会性」低下

一学期に関わらず、全体的に満足度が高位



研究開発の成果

1. 「白い森未来探究学」を軸とした成長実感のあるカリキュラムの開発

地域協働カリキュラム一期生の変化（2019～2021年度の3カ年調査結果）より（その3）

⑥教育活動の成果（おぐパワ7[育成したい資質能力]に関する評価指標の「肯定的回答の割合」の推移



全領域で入学時より高位（特に「課題設定力」「行動力」「受容力」「粘り強さ」に顕著な伸び） △「伝える力」「考える力」に課題感



出典：高校魅力化評価システム 組織診断レポートフォリオ（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）

研究開発の成果

2. 自走する生徒・教員・地域を支える体制の構築

- ▶ 「挑め、ともに！」が高校の「文化」として浸透（自走する生徒を生み出す対話）
- ▶ 教育現場や地域活動のバージョンアップ（大人の学ぶ機会の創出→自走できる教員・地域へ）
 - ➡ 大学・企業・他校とのつながりや表現の場の増加による新しい価値観への気づき

研究開発の成果

3. 高校の存在意義の確立と関係（還流）人口の創出・拡大

- ▶ 小国高校の教育活動への理解の深まり
 - ▶ 町内中3生・保護者・中学教員「高校の印象が良くなった」割合が高位（90%超）
 - ➡ 地元中学生の進学率の維持（30%強）
 - ▶ 町がリーダーシップを執って高校魅力化を推進
 - ➡ 町教育委員会内に「高校魅力化推進室」発足（2021年～）
 - ➡ 地元への愛着や誇りを醸成し、地域活性化の一翼を担う人材育成の意義浸透
- 高校だけでなく地域の多様な大人が参画することで肥沃な学びの土壌になる
（「高校生と一緒にやると面白い」「高校生がいてくれると助かる」という実感）
- ➡ 地元就職を希望する生徒の高校卒業後の地元就職率の維持（100%）



研究開発の成果

1. 「白い森未来探究学」を軸とした成長実感のあるカリキュラムの開発
2. 自走する生徒・教員・地域を支える体制の構築
3. 高校の存在意義の確立と関係（還流）人口の創出・拡大

研究開発の結論

コンソーシアム及び保小中高一貫教育を活用し、「白い森未来探究学」を軸とした高校での学びを地域内外の様々な主体と協働することで、小国高校の教育目標である「広い視野と高い志をもって、地域に貢献し国際社会に生きる活力ある人材の創生」を実現できたと言える。また、地域協働活動を通して、地域の魅力を再認識するとともに愛着や誇りを養い、積極的に地域とつながり、地域活動に取り組み人材を育てることになり、小国町の望む地域活性化の一翼を担う人材の創出となった。

課題

- ◇ 生徒の成長実感を意識したカリキュラムの年次改良とグランドデザインの整理
小国高校・小国町で育てたい生徒像「白い森人」の再確認
- ◇ 外部有識者とのつながりの継続（学び続ける教員・地域を継続する意義や価値を理解し、計画的に研修を創出できる資金の確保）
- ◇ 高校魅力化コーディネーターの十分な活用と小国高校・小国町の求める人材の継続確保
- ◇ コンソーシアムの在り方（生徒の興味・関心に応えるための機関としての実働性の強化）

今後の展望

これからもチームで「挑め、ともに！」

- 高校・町の未来や夢を本気で語る場の創出（皆で作りに上げる・共有する意識を！）
- 「意識高い系」教育現場・地域の維持＝変態化しやすい環境を維持
（有識者等より中央省庁等の最新情報を得て、時代の潮流を理解し続ける意識）





小国高校公認キャラクター おぐまん



白い森未来探究学 研究報告書

小国町教育委員会・山形県立小国高等学校 発行